

東京都最低賃金改正
10/1より
最賃850円
引き続き時給1000円以上を求め
ともに闘いましょう!!

練馬労連

発行所：練馬区労働組合総連合
練馬区中村北1-6-2
東京土建練馬支部会館内
電話：03-3825-7146
fax：03-3825-7117
mail:nerima-roren@celery.ocn.ne.jp

2012年原水爆禁止世界大会開催

国内外から

参加7200人

8月4日から6日まで、広島で原水爆禁止世界大会が行われました。会場は、20カ国64人の海外からの参加者を含む、7千2百人の人々で、広島県立総合体育館は埋め尽くされました。練馬からは、若男女を問わず小学生から70歳代の方まで幅広い年齢層の方々28名が積極的に参加されました。とりわけ、この大会に40年来参加し続けている方のその優しい眼差しは、「何としてもこの思いを成し遂げるのだ」という決意を示していました。



練馬からの参加者の面々皆さんいい顔されてます



熱気溢れる原水爆禁止世界大会の会場
世界中の人々との繋がりを感じる

大会は4日に開会式が広島県立総合体育館のグリーンアリーナで行なわれました。会場は、これから始まる、原水爆全面禁止の世界大会に向けた参加者の意気込みで熱気に包まれ、全ての人が、正面ステージを凝視している姿は、私たちを感動させるに十分でした。開会式は、全労連の大黒作治議長の開会宣言に始まり、松井一実広島市長の挨拶、その後、国内はもとより世界各国から参加している各団体が、それぞれの取り組みや、自国の抱える問題点などについて発言し、3日間にわたる大会の成功を誓い合い開会式は、終了しました。2日目は、各分科会に分かれ、様々な観点から、核兵器廃絶について

の議論が行なわれました。特徴的だったのは、核兵器のみならず、核エネルギー、即ち原子力、原発の問題についても多くの分会があつたことです。練馬の参加者は、分會後、原爆資料館に集合し、館内を見学、原爆の恐ろしさ

世界共通語は

核兵器 NO!!!

核エネルギー NO!!!

を学びました。3日目は、開会式と同じグリーンアリーナでおこなわれ、世界各国の代表が「自国と自分達のかげがえのない家族の幸せのために、核は何としても廃絶させなければならぬ」、2度と再び、ヒロシマ、ナガサキの悲劇を起さないうため、知恵と勇気と積極的な行動力で核廃絶に向け、共に頑張りましょう」と訴えました。原爆を投下したアメリカからの参加者である、アメリカフレンス奉仕委員会の、ジョセフ・ガーソンさんが、合掌したまま登壇し、「私

お地蔵様は語り続けている

アメリカからの参加者「NPT(核不拡散条約)締結に向け、国際的世論を、全世界に広げるため、皆さんと手を取り合って、大きな運動のうねりを作りましょう」と述べたことに、会場からは大きな拍手が沸きあがりしました。閉会式の最後には、高校生平和学習セミナーの青年達が、被災地汽仙沼の漁民から借り受けた大漁旗を持って多数登壇し、反戦歌手ジョーン・バエズの名曲「we shall overcome」を参加者全員で歌うという感動的なフィナーレを迎えました。

しかし、会場の外へ出て広島

告知

練馬労連第二十回定期大会について

日時：2012年10月20(土)午後1時開場 / 場所：練馬区勤労福祉会館集会室
尚、代議員、役員告示は拡大幹事会後に行ないますので、準備をお願い致します。

練馬区労働組合総連合 議長代行 金田 安夫

7.16 さよなら原発10万人集会

十七万人の願い一つ

7月16日、30を越す猛暑の中、「さよなら原発10万人集会」が代々木公園で行なわれました。練馬からは、東京土建を始め、福祉保育労、年金者組合、映産労、建交労教宣文化社などの労働組合、民商、新婦人、革新懇、などから、多数の参加者がありました。



17万人が集結した代々木公園、人、人、人で埋め尽くされた会場



沖縄からの参加者は沖縄から持参した新聞を広げ、オスプレイ反対の声をあげ続けていた

金より命

反対する人々、日米安保撤廃を求める人々など、全ての人々が平和への思い、脱原発への願いを一つにしています。「年前、自由を奪われた時代がある。過去の人たちが苦勞して自由を守ったから今日がある。たとえ相手が聞かなくても言い続けますよ」「お金より命です。福島のために、沈黙するのは野蠻である」そして、福島からの参加者が叫びました。「電気がなくて真つ

暗だつて、いいじゃないですか！家族がいれば！」

集会のあとは、3つのコースに分かれて、シュプレヒコールの音が枯れるほどの勢いでデモ行進が行なわれました。さながら、街全体が、反原発一色に染まったようない日でした。

不正と不義の産物であるこの原発。私たちは、今こそ、自由と民主主義、非軍事化を求める全ての人々と手をつなぎ、核エネルギーに頼らない、公正で平和な新しい世界への扉を開くために、ともに、全力で頑張つて行くうではありませんか。

社会保障と労働組合シリーズ 第1弾 東京土建と社会保障闘争

東京土建にとって社会保障の改善や改悪反対のたたかいは、その誕生とともに開始されました。

建設で働く人は「ケガと弁当は手前もち」といわれ、病気・ケガをしても何の保障もない状況でした。産業別・個人加盟の労働組合として東京土建は結成時から「生活費基準の最低賃金制確立・1日7時間1週40時間労働制確立・災害疾病に対する完全保障」などをかかげ闘いを続けました。

社会保障闘争は東京土建にとって、存在価値を示すものになり、本来、認められていなかった1人親方の労災保険を認めさせ、土建国保という健康保険制度を獲得しました。

現在も、土建国保は「入院時・本人・家族ともに全額償還制度」など、病気で入院すると何の保障もない職人・1人親方にとって安心して療養でき、共済制度と合わせると入院時・一日10000円以上の給付が受けられるなど、すぐれた制度を勝ち取っています。

そのため、東京土建は国や都の予算から土建国保に対する補助金獲得のたたかいを毎年取り組んできています。その根拠となっているのが、憲法25条で保障された「生存権」です。今、その憲法25条を根こそぎ崩そうとする動きが強まっています。

東京土建練馬支部 阿部弘明

